

<集計結果概要版> 市民意識調査

令和7年度に第5次総合計画が中間年度を迎えることに伴い、これまでの取組を評価、検証するにあたり、市民の皆様の生活環境や市政運営に関する満足度やご意見、ご要望などを把握するため、魚津市総合計画策定のための「市民意識調査」を実施しました。

より多くの市民の皆さまからのご意見をいただくため、今回は無作為抽出した対象者 3,000 人への調査とともに、どなたでもご自由にご回答いただける、インターネットでの調査も実施しました。

— 調査概要(調査期間:令和6年 10月 18日(金)~11月 14日(木)) —

①抽出調査

- ▶調査対象:18歳以上の魚津市民 3,000人
- ▶抽出方法:層化無作為抽出
(地区の人口や年代に応じた抽出方法)
- ▶調査方法:郵送返送方式、インターネット回答

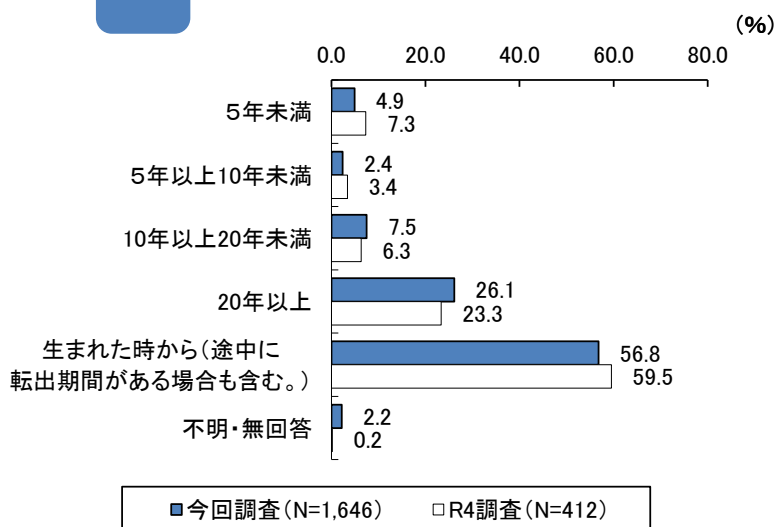
②インターネット調査

- ▶調査対象:18歳以上の魚津市民どなたでも
- ▶調査方法:インターネット回答

有効回答数:①1,646件 ②197件

Q

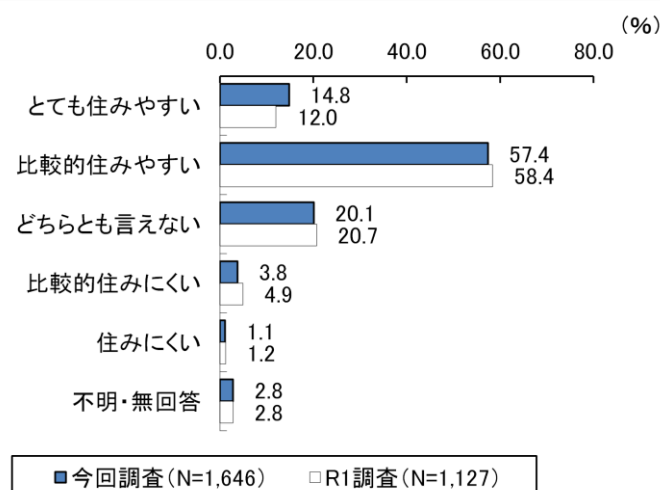
居住年数と住みごころ(1つに〇)



問1で「魚津市に何年くらい住んでいるか」、問2で「住みごころ」を調査しました。前回や前々回調査と同じ設問のため、比較しています。

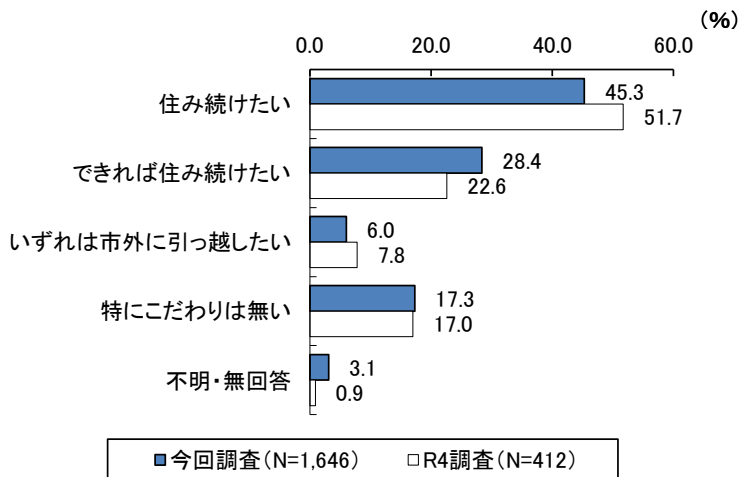
◆居住年数は「生まれた時から」、住みごころは「比較的住みやすい」が最も高い

- ・居住年数では「生まれた時から」は男性が18.5ポイント高くなっています。
- ・住みごころについて、「とても住みやすい」と「比較的住みやすい」を合わせた『住みやすい』は72.2%、「比較的住みにくい」と「住みにくい」を合わせた『住みにくい』は4.9%となっています。
- ・インターネット調査でも同じ傾向となりました。



Q

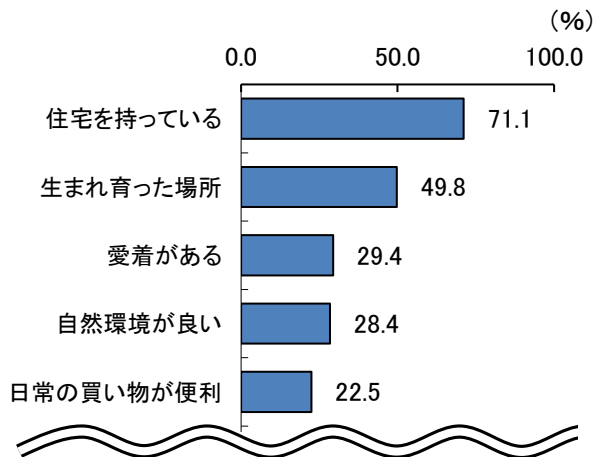
居留意向（1つに〇）



問3で「これからもずっと魚津市に住み続けたいか」を調査しました。前回調査と同じ設問のため、比較しています。問4・問5では、その理由を聞いています。

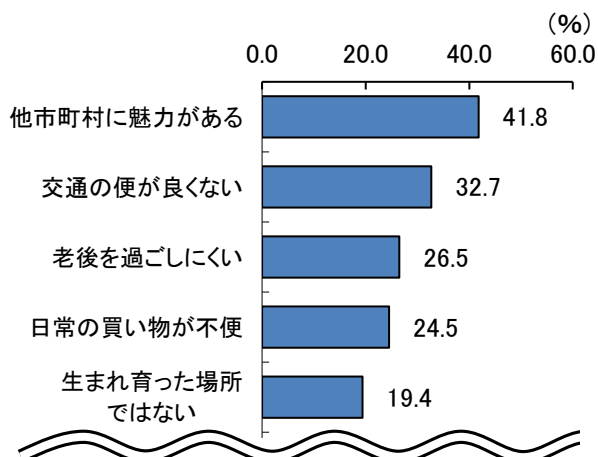
【住み続けたい理由】※上位5位

今回調査 (N=1,213)



【住み続けたくない理由】※上位5位

今回調査 (N=98)



◆「住み続けたい」「できれば住み続けたい」を合わせた『住み続けたい』割合は7割超

- ・「住み続けたい」が 45.3%、「できれば住み続けたい」が 28.4%と『住み続けたい』割合が高い結果となりました。
- ・前回調査（R4 調査）と比較すると、今回調査では「住み続けたい」が 6.4 ポイント減少し、「できれば住み続けたい」が 5.8 ポイント増えています。

◆住み続けたい理由は「住宅」「生まれ育った場所」「愛着」「自然環境が良い」等

- ・20代以上で年代が高くなるにしたがい「住宅を持っている」が高くなっています。

◆住み続けたくない理由は「他市町村に魅力」「交通の便」「老後」「買い物が不便」等

- ・いずれの年代でも「他市町村に魅力がある」が3割を超えています。

Q

市の施策に対する満足度 (5段階評価)

施策名 (35 施策中)	
高 ↑ (満足度)	1位 水道水の安定的な供給
	2位 下水道の安定的な運営
	3位 快適な生活環境の保全
	4位 水と緑の保全と活用
	5位 地球温暖化防止対策・循環型社会の構築
)	
↓ 低	31位 雇用・労働環境の充実
	32位 定住対策の充実
	33位 観光の振興
	34位 工業・商業の振興
	35位 中心市街地のにぎわいの創出

※満足度高い⇒「満足」「やや満足」の回答割合の合計が高い項目

※満足度低い⇒「やや不満」「不満」の回答割合の合計が高い項目



問6では第5次魚津市総合計画で掲げる35施策に対して、「満足」「ほぼ満足」「どちらとも言えない」「やや不満」「不満」の5段階による調査を行いました。

◆「生活環境」「自然環境」の取組が上位

・上下水道の安定的な供給・運営や生活環境の保全などに関する取組は満足度が高い結果となりました。

◆「市街地のにぎわい」「商工業」「観光」「定住」の取組が下位

・市街地のにぎわいや商工業、観光などに関する施策は満足度が低い結果となりました。市では人口減少が続いており、にぎわいづくりや雇用創出分野への改善が求められています。

Q

今後、力を入れるべき施策 (5つまで選択)

施策名 (35 施策中)	
高 ↑ (力を入れるべき)	1位 高齢者の生活支援の充実
	2位 切れ目のない子育て支援の推進
	3位 中心市街地のにぎわいの創出
	4位 災害に強いまちの形成
	5位 定住対策の充実
)	
↓ 低	31位 林業の振興
	32位 生涯学習の推進
	33位 水と緑の保全と活用
	34位 市民参画・協働の推進
	35位 下水道の安定的な運営



問7では第5次魚津市総合計画で掲げる35施策に対して、「力を入れるべき施策」を調査しました。

◆「高齢者、子育ての支援」「市街地のにぎわい」「災害対策」「定住」の取組が上位

・高齢者の生活支援や子育て支援など、福祉に関する取組は重要性が高い結果となりました。

・中心市街地のにぎわい創出や定住は、満足度ランクで下位となっていますが、力を入れるべき分野として割合が高くなっています。

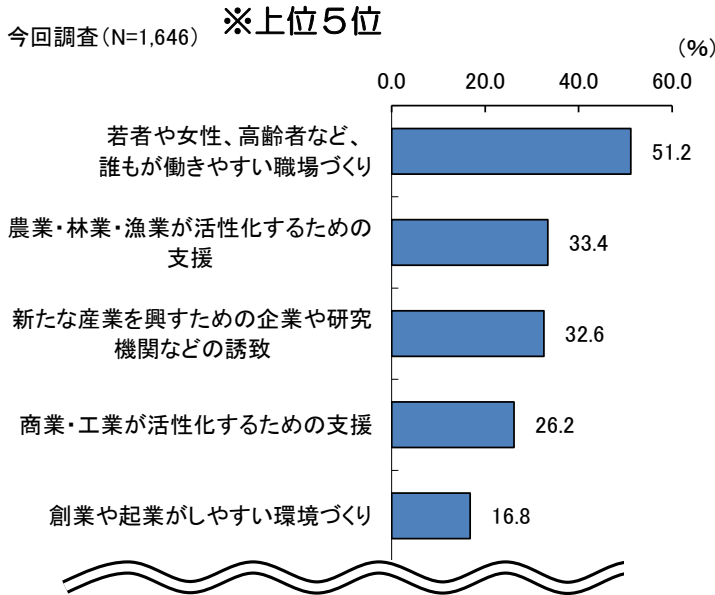
テーマ「魚津市のまちづくり」～働く場、しごとの創出～



産業の振興や魅力あるしごと創りのためには、どのようなことに力を入れるべきか（〇は2つ）



今回の調査は「魚津市のまちづくり」を1つのテーマとしており、問8で、働く場、しごとの創出に関する調査を行いました。



◆「誰もが働きやすい職場づくり」が最も高い

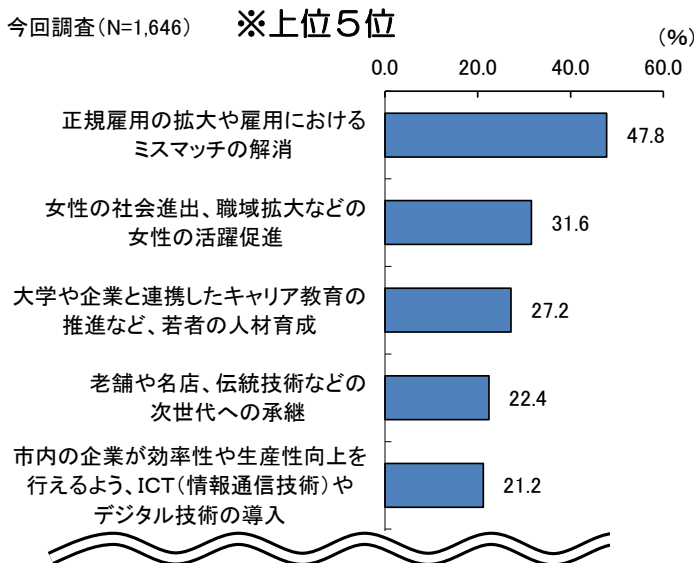
- ・「誰もが働きやすい職場づくり」「農林漁業が活性化するための支援」「新産業を興すための誘致」が3割以上となっています。
- ・年代が若い層では「テレワーク、ワーケーション等の新しい働き方や暮らし方の変化に対応した雇用環境づくり」が高くなっています。
- ・インターネット調査では「商業・工業が活性化するための支援」が3割を超えています。



若者や女性の転出が増加している中で、働く場として選ばれるまちにするために必要なこと（〇は2つ）



問9で、働く場として選ばれるために必要なことを調査しました。



◆「正規雇用拡大や雇用におけるミスマッチ解消」が最も高い

- ・「女性の活躍」「若者の人材育成」「伝統技術の継承」「ICT やデジタル技術の導入」も2割以上となっています。
- ・女性は「女性の社会進出、職域拡大などの女性の活躍促進」が3割を超えています。
- ・「正規雇用拡大や雇用におけるミスマッチ解消」は、70代以上を除いて年代が高くなるにしたがい割合が高まる傾向となっています。
- ・インターネット調査でも同じ傾向となりました。

テーマ「魚津市のまちづくり」～にぎわいづくり～

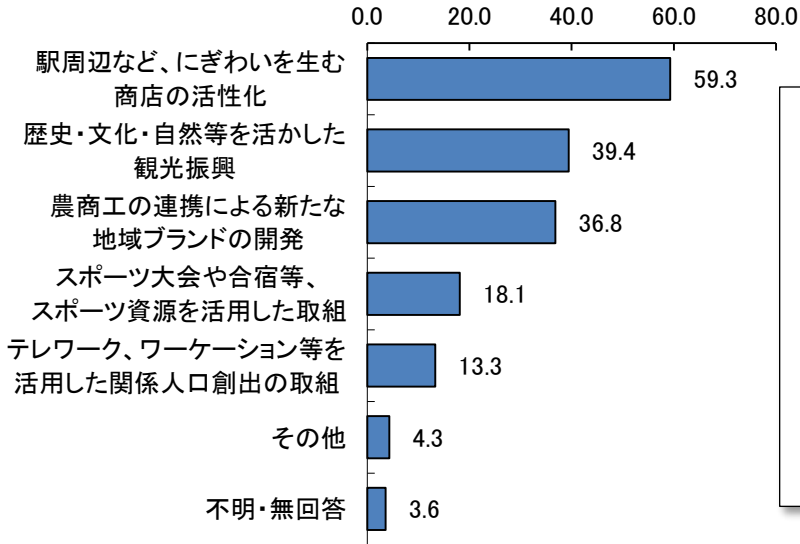
Q にぎわいの創出や新たな交流を生み出すために、力を入れるべきこと（〇は2つ）



問10で、にぎわい創出のために必要なことを調査しました。

今回調査(N=1,646)

(%)



◆新たににぎわいづくりや交流を生み出すために必要なものは駅周辺や商店の活性化

- ・すべての年齢層で「駅周辺など、にぎわいを生む商店の活性化」の割合が高い結果となりました。
- ・インターネット調査でも同じ傾向となりました。

テーマ「魚津市のまちづくり」

～定住促進の取り組みや人口減少抑制策～

Q 人口減少を克服し活力ある社会を目指して、魚津市が取り組むべきこと（〇は2つ）

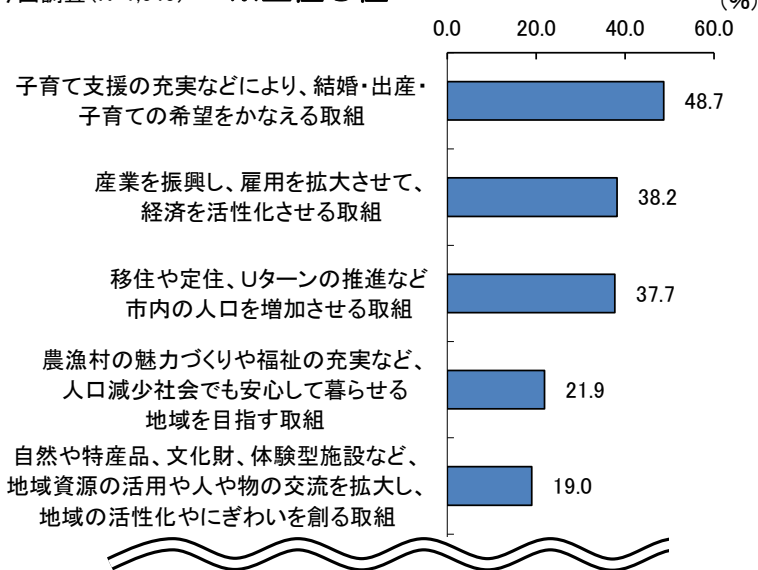


問11で、人口減少を克服し活力ある社会を目指して、魚津市が取り組むべきことを調査しました。

今回調査(N=1,646)

※上位5位

(%)



◆「子育て支援の充実などにより、結婚・出産・子育ての希望をかなえる取組」が最も高い

- ・20代・30代では7割台と、特に高くなっています。
- ・インターネット調査では「移住や定住、Uターンの推進など市内の人口を増加させる取組」が4割を超えて2番目に高くなっていました。

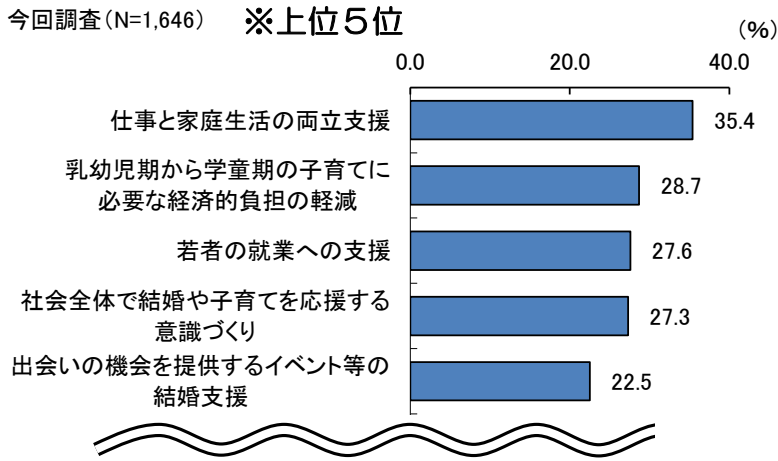
テーマ「魚津市のまちづくり」～結婚や出産について～



結婚に関して、どのような支援があれば効果的と思うか
(〇は2つ)



問 12 では「結婚への効果的な支援」について調査しました。



◆「仕事と家庭生活の両立支援」が最も高い

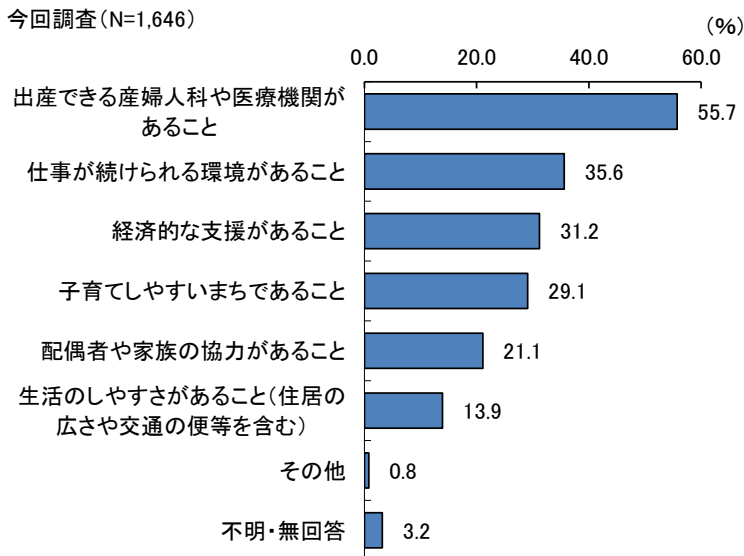
- ・「仕事と家庭生活の両立支援」は女性の割合が男性よりも高くなっています。
- ・「乳幼児期から学童期の子育てに必要な経済的負担の軽減」は20代で5割を超えています。
- ・インターネット調査では「乳幼児期から学童期の子育てに必要な経済的負担の軽減」が最も高くなっていました。



子どもを望む人が安心して子どもを産むためには、どのようなことが必要か
(〇は2つ)



問 13 では子どもを望む人が安心して子どもを産むために必要なことを調査しました。



◆「産婦人科や医療機関があること」が最も高い

- ・「経済的な支援があること」は男性の割合が女性よりも高くなっています。
- ・「経済的な支援があること」は20代で5割を超えています。
- ・インターネット調査では「経済的な支援があること」が4割近くで2番目に高くなっていました。

テーマ「魚津市のまちづくり」～子育てしやすいまちづくり～

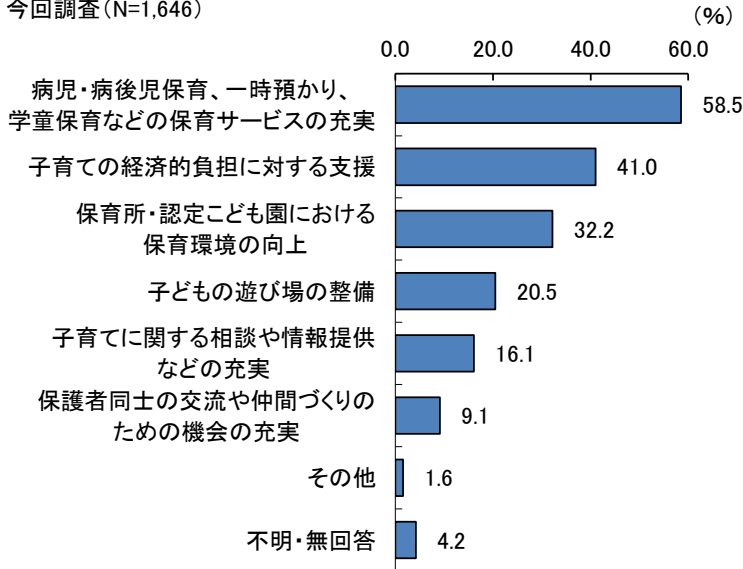


子育て環境を充実させるために、どのようなことに力を入れるべきか（〇は2つ）



問 14 では「子育て環境の充実」について調査しました。

今回調査(N=1,646)



◆「保育サービスの充実」が最も高い

- ・「子育ての経済的負担に対する支援」は20代・30代・40代で5割台となっています。
- ・転入者で「子育ての経済的負担に対する支援」が4割以上となっています。
- ・インターネット調査でもほぼ同じ傾向となっています。



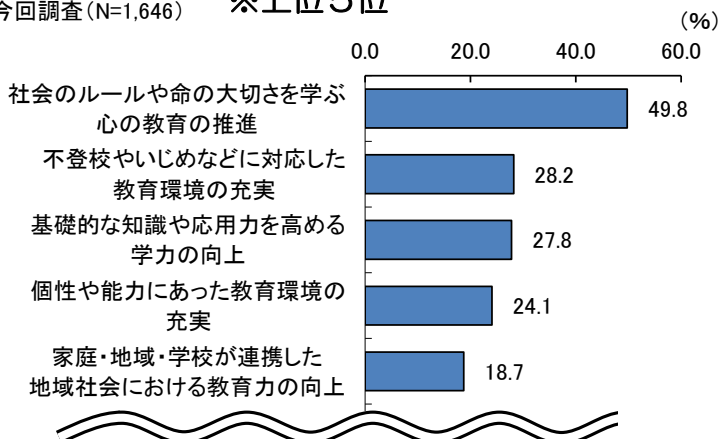
教育を充実させるためには、どのようなことに力を入れるべきか（〇は2つ）



問 15 では「教育の充実」について調査しました。

今回調査(N=1,646)

※上位5位



◆「社会のルールや命の大切さを学ぶ心の教育の推進」が最も高い

- ・「基礎的な知識や応用力を高める学力の向上」は男性の割合が女性よりも高くなっています。
- ・「不登校やいじめなどに対応した教育環境の充実」は10代では4割近くとなっており、最も高くなっています。
- ・インターネット調査では「基礎的な知識や応用力を高める学力の向上」が4割近くで2番目に高くなっていました。

テーマ「魚津市のまちづくり」～安全・安心な暮らし～

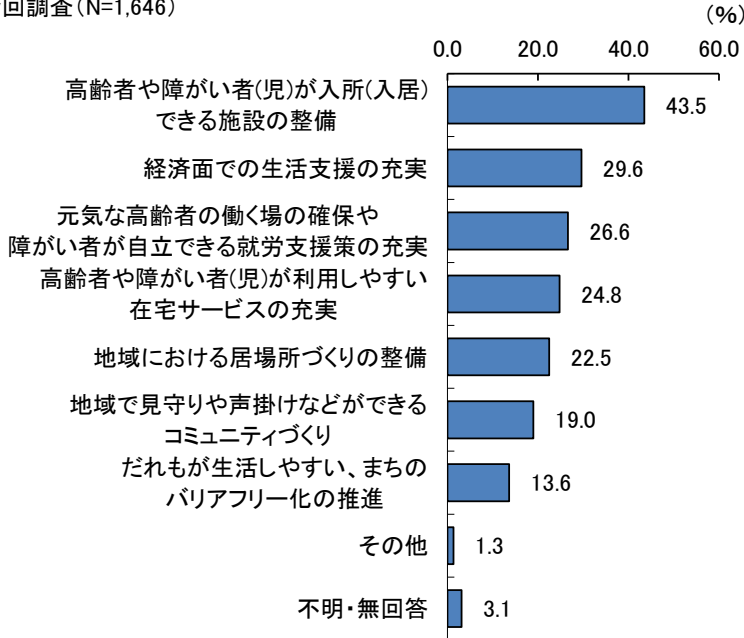


福祉を充実させるために、どのようなことに力を入れるべきか（〇は2つ）



問 16 では「福祉の充実」について調査しました。

今回調査 (N=1,646)



◆「高齢者や障がい者(児)が入所(入居)できる施設整備」が最も高い

- ・「高齢者や障がい者(児)が利用しやすい在宅サービスの充実」は女性の割合が男性よりも高くなっています。
- ・「経済面での生活支援の充実」は50代では3割を超え、最も高くなっています。
- ・インターネット調査では「経済面での生活支援の充実」が4割近くで最も高くなっていました。

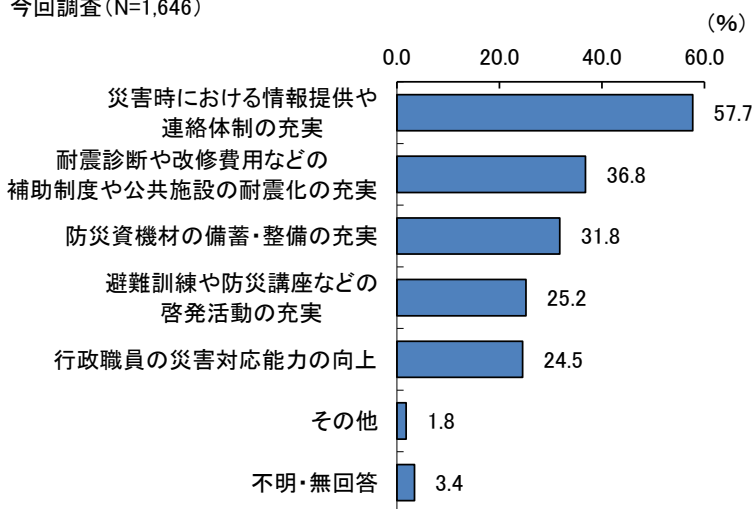


防災に対する取組として、どのようなことに力を入れるべきか（〇は2つ）



問 17 では「防災への取組」について調査しました。

今回調査 (N=1,646)



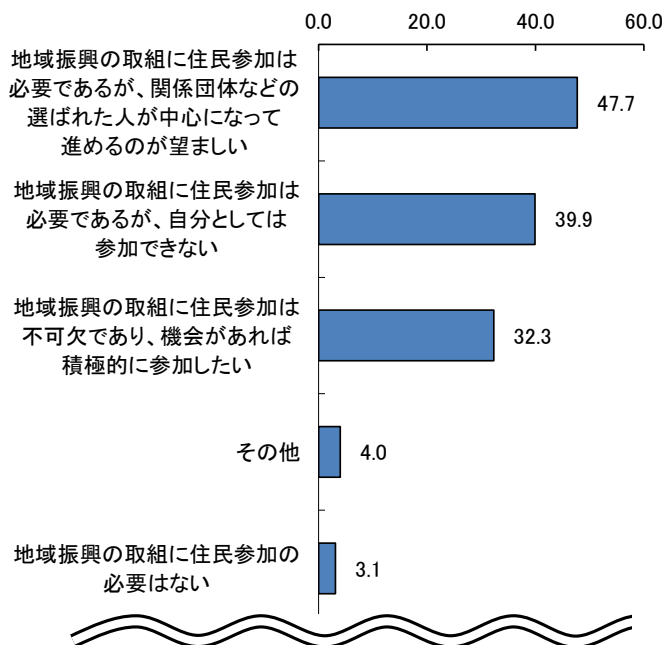
◆「災害時における情報提供や連絡体制の充実」が最も高い

- ・「災害時における情報提供や連絡体制の充実」は女性の割合が男性よりも高くなっています。
- ・「耐震診断や改修費用などの補助制度や公共施設の耐震化の充実」は20代で5割を超え、高くなっています。
- ・インターネット調査でもほぼ同じ傾向となっています。

テーマ「魚津市のまちづくり」～これからのまちづくり～

Q 地域振興の取組に参加することについて、どう考えるか（〇は2つ）

今回調査(N=1,646) ※上位5位 (%)



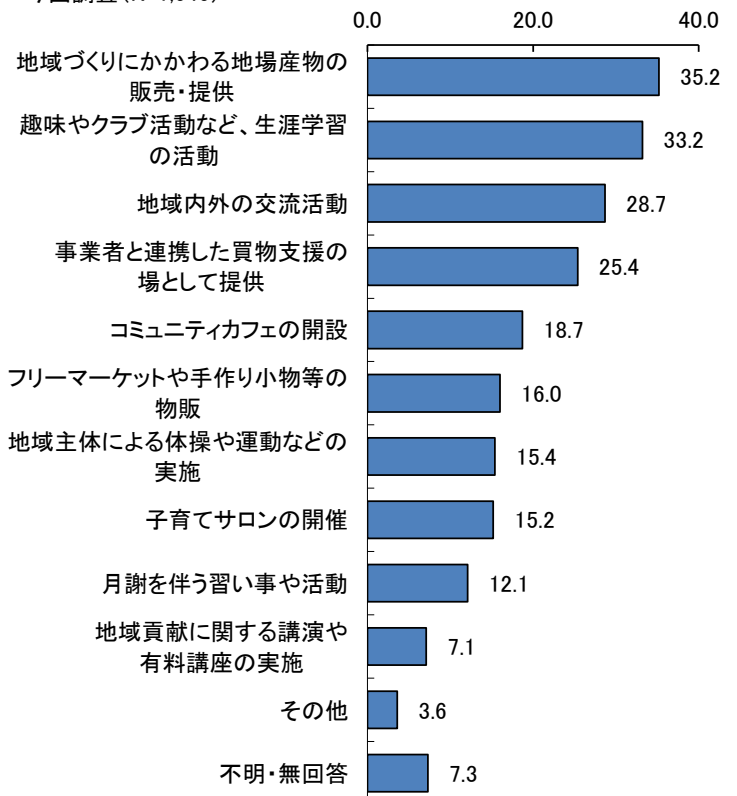
問 18 では「地域の取組への参加意向」について調査しました。

◆「住民参加は必要であるが、選ばれた人が中心になって進めるのが望ましい」が最も高い

- ・「住民参加は必要であるが、自分としては参加できない」は女性の割合が男性よりも高くなっています。
- ・「住民参加は必要であるが、自分としては参加できない」は10代・70代で4割以上となっています。
- ・インターネット調査では「機会があれば積極的に参加したい」「選ばれた人が中心になって進めるのが望ましい」が4割を超え、同率で最も高くなっていました。

Q 今後、コミュニティセンターにどのような機能があればよいか（〇は2つ）

今回調査(N=1,646) (%)



問 19 では「今後、コミュニティセンターにどのような機能があればよいか」について調査しました。

◆「地域づくりにかかわる地場産物の販売・提供」「趣味やクラブ活動など」「地域内外の交流活動」の取組が上位

- ・10代では「事業者と連携した買物支援の場として提供」、20代・30代では「趣味やクラブ活動など、生涯学習の活動」、40代以上では「地域づくりにかかわる地場産物の販売・提供」がそれぞれ最も高くなっています。
- ・インターネット調査では「月謝を伴う習い事や活動」が3番目に高くなっています。

テーマ「デジタル化」の取組について

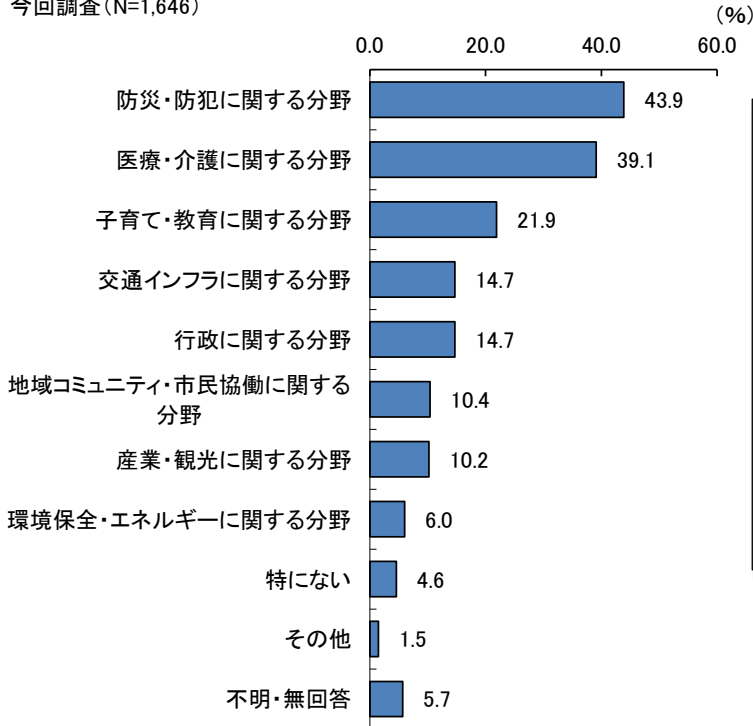


「デジタル化」に関して、今後より必要だと感じる分野 (〇は2つ)



問 20 では「デジタル化に関して、今後より必要だと感じる分野」について調査しました。

今回調査 (N=1,646)



◆「防災・防犯に関する分野」「医療・介護に関する分野」が高い

- ・「交通インフラに関する分野」は男性の割合が女性よりも高くなっています。
- ・「防災・防犯に関する分野」は下中島・片貝地区で5割台となっています。
- ・インターネット調査では「行政に関する分野」が3割近くで、3番目に高くなっていました。

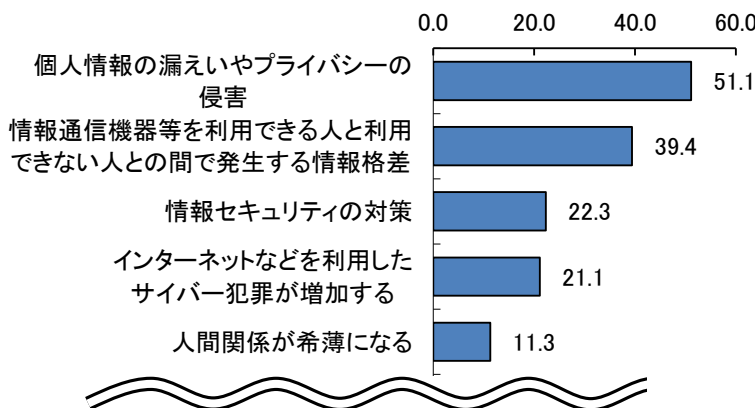


デジタル化が進むことで、感じる不安 (〇は2つ)



問 21 では「デジタル化が進むことで不安に感じること」について調査しました。

今回調査 (N=1,646) ※上位5位



◆「個人情報の漏えいやプライバシーの侵害」が最も高い

- ・「情報通信機器等を利用できる人と利用できない人との間で発生する情報格差」は女性の割合が男性よりも高くなっています。
- ・「情報通信機器等を利用できる人と利用できない人との間で発生する情報格差」は年齢があがるにつれ高まる傾向となっています。
- ・インターネット調査では「情報セキュリティの対策」が2割を超え、2番目に高くなっていました。